

古文文法
習熟度テスト⑤
解答

名前

1
係助詞

(1)「係り結びの法則」に関して、次の空欄を埋めなさい。(各1点×8)

1. 結びの活用形

①ぞ・なむ・や・か↓
(①)
形

②
こそ
↓
（
②
）
形

2. 係助詞と意味

①強意
↓
(
③
)
・
(
④
)
・
(
⑤
)

②疑問・反語 ↓
(⑥)
・
(⑦)

3. 係助詞の用法

「やは」「かは」は、(⑧)の意味になることが多い。

連体¹

$$\overbrace{\quad\quad}^2$$

已然

$$\overbrace{\quad\quad}^{\text{ズ}}_3$$

そ

$$\overbrace{\quad\quad\quad}^{\quad\quad\quad}_4$$

なむ

こそ

6

0

$$\overbrace{\quad\quad}^{\quad\quad} \overbrace{\quad\quad}^{\quad\quad} 7$$

か

か

8

反語

* 3と5は順不同、6と7は逆でも可

(2) 次の文章で説明されているある表現について答えなさい。(2点)

強調したいことの反対のことを、わざと疑問で問いかけて否定をすることで強調させる表現を何というか。

反語

(3) 次の文章で説明されている、ある用法(ⅡX)について答えなさい。(2点)

1. 通常、係り結びの法則が発動する場面で、本来あるべき「結び」の語が省略されることを何というか。

X Ⅱ
〔 結びの省略 〕

2. Xの用法について説明した、次の文章の空欄を埋めなさい。(各1点×3)

Xの用法には、上に(①)の助動詞「なり」の(②)形の「に」がある形と、格助詞の(③)がある形の、2つのパターンがある。

〔 断定 〕¹
〔 連用 〕²
〔 と 〕³
〔 〕

3. Xの用法の解釈の仕方について説明した次の文章の空欄を埋めなさい。(各1点×2)

現代語訳の際には、(①) されている言葉を(②) して訳す。

〔 省略 〕¹
〔 補っ 〕²
〔 〕

(4) 次の文章で説明されているある用法について答えなさい。(2点)

通常、係り結びの法則が発動する場面で、「結び」となるべき語が接続助詞を伴って下に続くとき、「結び」が完結しないことを、何というか。

〔 結びの流れ(消滅・消去) 〕

(5)係助詞の「逆接強調用法」について説明した次の文章の空欄を埋めなさい。(各1点×4)

係助詞の「逆接強調用法」は、(①) に係助詞「こそ」があり、「こそ…(②) 形、」の形になっている時の解釈の仕方である。この用法を訳出する際には、「…(③) 」のように(④) の関係で文章を繋げて訳すことが必要になる。

1 文中 2 已然 3 けれど 4 逆接
けれど
けれどもが

(6)係助詞の「危惧(懸念)用法」について、次の問いに答えなさい。(各1点×2)

1.係助詞が、「危惧(懸念)用法」になる2つの形を答えなさい。

① もぞ ② もこそ

2.「危惧(懸念)用法」の訳し方を答えなさい。(2点)

もしたら大変だ・もしたら困る

(7)次の各文の「結びの語」を係り結びの法則に従って、適切な活用形に変えなさい。(各2点×6)

①仏の御教へにたがふらんとぞ(おぼゆ)。

仏の御教えにそむいているだろうと思われる。

②なんぢもし小督が行方や知り(たり)。

おまえはもしかして小督の行方を知っているか。

③聞きしにもすぎてたふとくこそおはし(けり)。

聞いていた以上に、尊くていらっしやった。

④あとまで見る人ありとは、いかでか知ら(む)

あとまで見ている人がいるとは、どうして知っているだろうか、いや知らない。

⑤橋を八つわたせるによりてなむ八橋といひ(けり)。

橋を八つかけていることによって、それで八橋といった。

⑥待つ宵、帰る朝、いづれかあはれはまされ(り)。

恋しい人を待つ宵と、恋しい人が帰る朝は、どちらが寂しきは勝っているか。

$\left[\begin{array}{c} \text{おぼゆる} \end{array} \right]^1 \quad \left[\begin{array}{c} \text{たる} \end{array} \right]^2 \quad \left[\begin{array}{c} \text{けれ} \end{array} \right]^3 \quad \left[\begin{array}{c} \text{む} \end{array} \right]^4 \quad \left[\begin{array}{c} \text{ける} \end{array} \right]^5 \quad \left[\begin{array}{c} \text{る} \end{array} \right]^6$

(8) 次の各文の () に省略されている語句を補いなさい。なお、語句を補う際は歴史的仮名遣いで表記しなさい。(各2点×3)

①未練の狐、化け損じけるにこそ () 。

未練な狐が化け損じたのであろう。

②くちばみにさされたる人、かの草をもみて付けぬれば、すなはち癒ゆとなむ () 。

まむしにかまれた人は、この草をもんで付けると、すぐに治るということだ。

③あやし。ひが耳にや () 。

変だなあ。聞き間違いだろうか。

$\left[\begin{array}{c} \text{あらめ} \end{array} \right]^1 \quad \left[\begin{array}{c} \text{いふ} \end{array} \right]^2 \quad \left[\begin{array}{c} \text{あらむ} \end{array} \right]^3$

(9) 次の各文の傍線部を口語訳しなさい。(各3点×4)

① 雨こそやみしか、風なほやまず。

② 花はさかりに、月はくまなきをのみ見るものかは。

③ あとまで見る人ありとは、いかでか知らん。

④ 「雨もぞ降る。御車は門の下に。」

雨は止んだけど、

見るものだろうか、いや違う(それ以外にも見るべきものはある)。

どうして知っていたのか、いや知っているはずはない。

雨が降ったら大変だ。

2 接続助詞

(1) 接続助詞に関する次の項目の空欄を埋めなさい。(各1点×39)

(1) 接続助詞「ば」

「ば」の用法＝「(順) 接」

「未然」 形＋ば＝「(仮定) 条件」

(もし) なら

「已然」 形＋ば＝「(確定) 条件」

原因・理由
偶然
恒常

＝「ので・から」
＝「ところ・と」
＝「いつも」

(2) 接続助詞「とも」

「とも」の用法＝「**逆**」接

「**終止**」形＋とも＝「**仮定**」条件
「**たとえ／＼しても**」

(3) 接続助詞「ど」「ども」

「ど」「ども」の用法＝「**逆**」接

「**已然**」形＋ど・ども＝「**確定**」条件

(4) 接続助詞「て」

「て」の用法＝「**単純**」接続

「**連用**」形＋て

(5) 接続助詞「で」

「で」の用法＝「**打消**」接続

「**未然**」形＋で
「**／＼ないで**」

(6) 接続助詞「に」「を」

「に」「を」の用法＝①「**順接**」
「**／＼ので・から**」

②「**逆接**」
「**／＼のに・けれど**」

③「**単純**」
「**接続**（／＼ところ・と）」

「**連体**」形＋に・を

(7) 接続助詞「つつ」

「つつ」の用法 ①

(反復) (～ては)

②

(継続) (～し続けて)

「**連用**」形 + つつ

(8) 接続助詞「ながら」

「ながら」の用法 ①

(逆接) (～のに)

②

(同時) (～ながら)

(9) 接続助詞「ものの」

「ものの」の用法 ① **逆接** () (～のに)

「**連体**」形 + ものの

(10) 接続助詞「ものから・ものゆゑ」

「ものから・ものゆゑ」の用法 ①

(逆接) (～のに)

②

(順接) (～ので)

「**連体**」形 + ものから
ものゆゑ

(11) 接続助詞「ものを」

「ものを」の用法 ① **逆接** () (～のに)

②

(順接) (～ので)

③ 〈終助詞として文末で〉

(**詠嘆**) (～のになあ)

「**連体**」形 + ものを

(2) 次の各文の傍線部①～④の「ば」の用法を、仮定はA、原因理由はB、偶然条件はC、恒常条件はDの記号で答えなさい。また、それぞれの文を口語訳しなさい。(訳…各3点×4・記号…各2点×4)

① それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

それを見ると、三寸ぐらいである人が、たいへんかわいらしい様子で座っていた

② 狂人のまねとて大路を走らば、すなはち狂人なり。

狂人のまねだといつてもし大路を走るならば、とりもなおさず狂人である

③ 命長ければ、恥多し。

命が長いといつも、恥となることが多い

④ 京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。

京では見かけない鳥なので、みんな知らない

(3) 次の各文の傍線部の接続助詞が接続する活用語をそのまま抜き出し、その活用形を答えなさい。また、それぞれの文を口語訳しなさい。
(抜き出し…各1点×5・活用形…各2点×5・訳…各3点×5)

① 船路なれど、馬のはなむけす。

なれ

已然

形

船の旅路だけれども、馬のはなむけをする

② 唐の物は、薬の外はなくとも事欠くまじ。

なく

終止

形

中国の物は、薬のほかはないとしてもきっと不自由しないだろう

③ 親のあはすれども、聞かでなむありける。

聞か

未然

形

親が結婚させようとするけれども、聞き入れないでいた

C

A

D

B

④ 住みはじめし時はあからさまと思ひしかども、今すでに五年を経たり。

【しか】 【已然】 形 住みはじめた時には、ほんのしばしの間と思ったのであったが、今までにもう五年の年月が経ってしまった

⑤ 我が身一つならば、安らかならまし。

【なら】 【未然】 形 自分の身体一つであったならば、心安らかだったろうに

(4) 次の文章を口語訳する際、空欄に当てはまる言葉を書きなさい。(2点)

身はいやしなから、母なむ宮なりける。

(口語訳) 身分は低い(けれども)、母は内親王であった。

3 「て」の識別

(1) 「て」の識別に関して、識別対象になる2つの内容を答えなさい。(各1点×4)

① (接続) 助詞「て」

② (完了) の助動詞「つ」の (未然) 形か (連用) 形

(2) 「て」の識別に関して、2つの識別対象の見分け方を説明した次の文章の空欄を埋めなさい。(各1点×5)

識別対象となる2つの「て」の接続は、いずれも活用語の (①) 形である。そこで、この両者を見分けるためには「て」の (②) に (③) があるか、ないかが判断基準となる。 (③) がない場合には、 (④) と判断することができる。一方、 (③) がある場合には (⑤) であると判別する。

1 (連用) 2 (真下) 3 (助動詞) 4 (接続助詞「て」) 5 (完了の助動詞「つ」)

4 格助詞

(1) 格助詞に関する次の項目の空欄を埋めなさい。(各1点×11)

(1) 格助詞「の」

「の」の用法

① 主格 (〃〃が) 体言の… (用言)

② 連体(修飾)格 (〃〃の) 体言の… (体言)

③ 同格 (〃〃で) 体言の… (連体形)

(例) 白き花の小さきあり。

④ 準体格 (〃〃のもの)

⑤ 連用(修飾)格 (〃〃のように)

* 「和歌」中の「の」で「〃〃のように」と訳せる

* 「例」の「の」

(2) 格助詞「より」(各1点×6)

「より」の重要な3つの訳

① 經由 (〃〃を) 通って

起点(〃〃から)で訳せた時、注意

(例) 木の間より洩り来る月の影

② 即時 (〃〃するやいなや)

(連体形) + より ↓ 「即時」から考える。

(例) 名を聞くより、やがて面影は推しはからるる心地するを…。

③手段・方法 (〓で)

「移動」手段が多い。

* (かちより) (〓徒歩で)

(3)格助詞「して」(各1点×3)

①手段 (〓で)

②共同 (〓と共に)

③使役の対象 (〓に命じて)

(例)人して、惟光召させて…

(2)次の各文の傍線部1～7の「の」「が」の用法を、主格はA、連体格はB、同格はC、準体格はD、連用修飾格はEの記号で答えなさい。
(各2点×7)

①おのれが¹芸の、まさりたることを喜ぶ。

[B]

②草の花はなでしこ。唐²のはさらなり。

[D]

③雪³のおもしろう降りたりし朝、

[A]

④日暮るるほど、例⁴の集まりぬ。

[E]

⑤この歌は、ある人のいはく、大伴黒主⁵がなり。

[D]

⑥中納言なる人⁶の、娘あまた持ち給へるおはしき。

[C]

⑦ 雀の子をいぬきが逃がしつる。

[A]

(3) 次の各文の傍線部 1 ～ 3 の「して」の用法を、手段は A、共同は B、使役の対象は C の記号で答えなさい。(各 2 点 × 3)

① 長き爪¹して目をつかみつぶさむ。

[A]

② 友とする人、一人二人²して行きけり。

[B]

③ 楫取り³して、幣奉らするに、

[C]

(4) 次の各文の傍線部 1 ～ 7 の「にて」の用法を、場所・時間は A、手段・方法は B、原因・理由は C、資格・状態は D の記号で答えなさい。

(各 2 点 × 6)

① 舟¹にて渡りぬれば、相模の国になりぬ。

[B]

② 竹の中におはする²にて知りぬ。

[C]

③ 塩海のほとり³にてあざれあへり。

[A]

④ 和泉式部、保昌が妻⁴にて丹後へ下りけるほどに…。

[D]

⑤ 物の怪⁵にて時々悩ませ給ふ。

[C]

⑥ 京⁶にて生まれし女子

[A]

5 終助詞

(1) 終助詞に関する次の項目の空欄を埋めなさい。(各1点×13)

終助詞

願望	ばや・てしがな・にしがな／なむ／もが・もがな・がな
念押し	かし
禁止	そ・な
詠嘆	かも・かな・か・も・な・や

★願望

〔自己 願望〕〓〓たい

〔未然 形〕形＋ばや

〔連用 形〕形＋
てしがな
にしがな

〔他者 願望(〓あつらえ) 〓〓てほしい

〔未然 形〕形＋なむ

〔状態願望〕〓〓があればなあ・〓がいればなあ・〓であればなあ

種々の語＋
もが
もがな
がな

★念押しし（「　　　　・　　　　　　」）

* 「ぞかし」（　　だよ・　　だね）の形

★禁止 　　するな

* 「　　　　」 　　そ（　　してくるな）

* 「　　ゆめゆめ　　」 　　な（　　決して　　するな）

(2) 次の各文の傍線部を口語訳しなさい。（各3点×3）

① ほととぎすの声たづねに行かばや。

たづねに行きたい

② はや夜も明けなむ。

早く夜が明けてほしい

③ いかでこのかぐや姫を得てしがな、見てしがな。

手に入れたものだ、見てみたいものだ

6 副助詞

(1) 副助詞に関する次の項目の空欄を埋めなさい。(各1点×8)

副助詞

(だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで)

★「だに・すら・さへ」の用法

副助詞	用法
*だに	類推 (「さえ」)
すら	
さへ	添加 (「までも」)

*「だに」には限定用法(「せめて」「だけでも」)もある。

(「だに」の意味の見分け方)「下」を見る。

だに＋(「願望」)・(「意志」)・(「命令」)・(「仮定」)

限定用法

(2) 次の各文を副助詞に注意しながら口語訳しなさい。(各3点×4)

① 言問はぬ木すら妹と兄ありといふをただ独り子にあるが苦しき

言葉を話さない木さえ妹と兄があるというのに、(私は)たった一人であるのが悲しいことだ。

②ある人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。

そこにいる人の毛穴まで見えるほどである。

③今日だにいい難し。まして後にはいかならむ。

今日さえ言にくい。まして、後日になったらどんなであろう。

④散りぬとも香をだに残せ梅の花恋しき時の思ひ出にせむ

たとえ散ったとしても香りだけでも残せ、梅の花よ、恋しいときの思い出にしよう。

7 「し」の識別

(1) 「し」の識別に関して、識別対象になる3つの内容を答えなさい。(各1点×5)

① (サ行変格活用) 動詞「す」の (連用) 形

② (過去) の助動詞「き」の (連体) 形

③ (強意) の副助詞「し」

(2) 「し」の識別に関して、3つの識別対象の見分け方を説明した次の文章の空欄を埋めなさい。(各1点×7)

「し」を識別する際に、「し」が (①) と訳せれば、その「し」は (②) 動詞の (③) 形と判断する。また、文中において「 (④) 形 + し」の形になっていれば、 (⑤) の助動詞「き」の (⑥) 形であると考え。そして、「し」を省いても文意が通じる場合には、 (⑦) の副助詞「し」であると判別する。

1 (する) 2 (サ行変格活用) 3 (連用) 4 (連用) 5 (過去) 6 (連体) 7 (強意)

(3) 次の各文の傍線部 1～7 の種類を、サ変動詞（の語尾）は A、過去の助動詞は B、副助詞は C の記号で答えなさい。（各 2 点×7）

① 〈強い風が〉少しなほりて出でむとし給へば、又同じやうになりぬ。

[A]

② 聞きしにも過ぎて〈石清水八幡宮は〉尊くこそおはしけれ。

[B]
[A]

③ 急ぎしもせぬほどに、月出でぬ。

[C]

④ 唐衣着つつなれにし妻しあればはるばる来ぬる旅をしぞ思ふ

[B]
[C]
[C]

8 呼応の副詞

(1) 次の呼応の副詞に当てはまる訳を、下の選択肢からそれぞれ選びなさい。（各 2 点×8）

①
いと
いたく
+ 打消

②
さらに
すべて
つゆ
よに
おほかた
たえて
つやつや
かけて
あへて
打消

③ いさ知らず
④ なゝそ
⑤ えゝ打消
⑥ よもゝじ
⑦ をさをさゝ打消
⑧
ゆめ（ゆめ）
かまへて
あなかしこ
そ
な
べからず

1 [G]
2 [C]
3 [E]
4 [A]
5 [D]
6 [F]
7 [H]
8 [B]

H	G	F	E	D	C	B	A
めったにゝない・ほとんどゝない	たいしてゝない	まさかゝないだろう	さあ、どうだかわからない	ゝできない	全くゝない・決してゝない	決してゝするな	ゝしてくれるな

(2) 呼応の副詞に関する次の項目の空欄を埋めなさい。(各1点×9)

★いかで(か)～

{ 推量 } || { 疑問 } / { 反語 }
(願望・意志) || 「なんとかして～したい・しよう」

{ } 「どうして～だろうか、いや、～でない」

★いつしか～願望 || 「早く { } ～したい・してほしい」

★かまへて～

{ 禁止 || { 決して } } ～するな
{ 命令・意志 || { 必ず } } { } ～せよ・しよう

★はやく～けり || 「なんと実は～だったよ」

(3) 次の各文(傍線部のあるものは傍線部のみ)を口語訳しなさい。(各3点×5)

① この(竜の首の)玉は、たはやすくえ取らじ。

取ることができないだろう

{ }

② (帝は、桐壺の更衣が里にさがるのを)さらに許させ給はず。

決して(いっこうに)お許しにならない。

{ }

③ (頭にかぶった鼎を)抜かんとするに、おほかた抜かれず。

まったく(いっこうに)抜けない。

{ }

④(明石の入道は)ここにはかしこまりて自らもをさをさ参らず。

めったに参上しない。

⑤雪のいと高うはあらでうすらかに降りたるなどは、いとこそをかしけれ。

雪がそれほど高く(深く)はなくて、

(4) 次の各文の空欄に、後の語群から適切なものを選び、活用させる必要のあるものは、適当な形に活用させて入れよ。(各2点×6)
(語群の語は必ずすべて用いること。また、二度用いるものがある)

①(大声で)なのたまひ(そ)。

②え追ひつか(で)、清水のある所に臥しにけり。

③さらにまだ見(ぬ)骨の様なり。

④(源氏物語を)「いかで見(ばや)」と思ひつつ、

⑤よも起きさせ給は(じ)。

⑥(水車は)おほかた回ら(ぎり)ければ、とかく(あれこれ)直しけれども、

【語群】 ず じ で そ ばや

(5) 次の各文(傍線部のあるものは傍線部のみ)を口語訳しなさい。(各3点×4)

①能登殿、いたう罪なつくり給ひぞ。

あまり罪をおつくりなさいますな。

②(ここにいる子供たちを)ゆめゆめ憎み給ふな。

決して嫌いなさいますな。(決してお嫌いにならないでください)

③いかで聞きつけ給ふらむ。

どうして(どうやって)聞きつけなさったのだろう。

④いかでとく都へもがな。*とく…「早く」

なんとかして早く都へ帰りたいものだ。